

## 続投から一転、コンテ首相が辞任へ

～それでも総選挙回避シナリオを維持～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 主席エコノミスト 田中 理 (TEL:03-5221-4527)

◇ 内閣信任投票をどうにか乗り切ったコンテ首相だが、連立を離脱した小政党が反対する重要法案の議会採決を28日に控え、内閣総辞職の意向を固めた。コンテ首相は総選挙を恐れる議員の協力を仰ぎ、首相返り咲きと議会基盤を固めることを目指すが、狙い通りに再任されるかは予断を許さない。コンテ首相の再登板が難しい場合も、同氏に代わる首相候補の下で政権誕生を優先し、右派ポピュリスト政権の誕生につながる早期の解散・総選挙を回避する可能性が高い。

20日付けレポート「[コンテ首相の続投が決定](#)」で指摘した通り、18・19日の内閣信任投票をどうにか乗り切ったイタリアのコンテ首相は、無所属議員や非与党議員の継続的な閣外協力や政権参加を呼び掛けているが、今のところ上院での絶対過半数を固めるには至っていない。こうしたなか、連立を離脱したレンツィ元首相が率いる小政党が反対する司法制度改革に関する重要法案の議会採決を28日に控えており、早くも政権存続の是非を試される。政府は現地時間の26日午前9時（日本時間の同日午後5時）に閣議を招集することを発表。閣議後にコンテ首相がマッタレラ大統領を訪問し、内閣総辞職の意向を伝える方針を固めたと現地紙などが報じている。

コンテ首相の辞任は必ずしも、右派ポピュリスト政権の誕生につながる解散・総選挙が近く行われることを意味するものではない。コンテ氏は重要法案の採決で敗れて政権が弱体化する前に、2019年9月に現政権が誕生した時と同様に、総選挙を経ずに首相に返り咲くことを目指している。議会の解散権を持つマッタレラ大統領は、上下両院での安定的な政権基盤の確保をコンテ首相に要請する一方で、コロナ禍での前倒し総選挙を積極的に支持している訳ではない。まずは主要政党党首と会談し、上下両院の過半数を確保可能な連立の組み合わせや首相候補を模索する可能性が高い。昨年9月に議員定数削減の国民投票が成立し、世論調査で優勢の右派ポピュリストを除けば、与党の多くが次の選挙で大きく議席を失う恐れがある。コンテ首相は自ら辞職することで、否決の恐れが高い28日の議会採決を先送りするとともに、総選挙を恐れる議員の協力を仰ぎ、首相再任と政権基盤を固める狙いがあるのだろう。

与党議員や一部の無所属・非与党議員は総選挙回避の思惑で一致しているが、コンテ首相が狙い通り、再任されるかは予断を許さない。上下両院の議会構成では、無所属・非与党議員の一定数が政権への安定的な協力や参加を表明するか、連立を離脱した小政党が連立に再参加する以外に、上下両院の安定過半数を確保することは難しい。政変の引き金を引いたレンツィ元首相が政権協力と引き換えにコンテ首相の退任を要求する可能性もある。コンテ首相の再登板が難しい場合も、現与党議員の多くは同氏に代わる首相候補の下で政権誕生を優先するとみられ、早期の解散・総選挙を回避するとの見方を維持する。

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。